

第46号

2016. 1. 20

日本歯科技工士連盟機関紙

れんめい

発行 日本歯科技工士連盟
東京都新宿区市谷左内町 21-5
歯科技工士会館内

発行人 衛 藤 勝 也

編集 日本歯科技工士連盟

国民の歯科医療に貢献するために

「歯科技工士に関する制度推進議員連盟」筆頭幹事・福岡資麿議員に聞く

2015年4月、「歯科技工士に関する制度推進議員連盟」（議連）の先生方のご尽力により、歯科技工士国家試験の全国統一化、歯科技工士に係る医療職俸給表（二）初任給基準表および医療職俸給表（二）在級期間表の改正が実現した。日本歯科技工士連盟では今後、「歯科技工士教育機関の教育年限延長」「歯科技工所の実態把握」「歯科技工料が適正に支払われるための施策」を3本の柱として取り組んでいく。今後の展望等について、議連の筆頭幹事を務める福岡資麿議員のもとを杉岡範明会長と古橋博美相談役が訪問し、お話を伺った。

剣道と料理で ストレス発散

杉岡会長（以下、杉岡） まずは先の内閣府副大臣へのご就任、誠におめでとうございます。

福岡議員（以下、福岡） ありがとうございます。

杉岡 福岡先生には、日ごろから「歯科技工士に関する制度推進議員連盟」の筆頭幹事として我々も大変お世話になっております。本当にありがとうございます。本日は先生のお人柄や理念などをご紹介する内容になればと思います。よろしく願いいたします。

福岡 こちらこそよろしく願いいたします。

杉岡 多くの議員の先生方が、日本の伝統ある武道を経験されています。例を挙げてみますと、故橋本龍太郎先生や谷垣禎一先生、鴻池祥肇先生が剣道、石原伸晃先生が少林寺拳法など、他にもたくさんいらっしゃいます。

福岡先生は小学校低学年から現在まで剣道を極められ、5段の腕前です。母校の慶応義塾大学では1年生からレギュラーとなり、4年生では副将を務められたとお聞きました。橋本岳先生も同じ大学の剣道部だったそうですが、そもそも先生が剣道を始められたきっかけはどのようなことだったのですか。

福岡 きっかけは祖父から勧められたことです。祖父も七段の腕前でしたが、小さいころから礼儀などを身につけるために剣道を習ってはどうかと勧められたのです。

習い始めたばかりの頃は、夏は暑い冬は寒いので嫌だったのですが、やはり自分に合っていたのでしょうか。だんだんはまって行って、今日まで続いています。

杉岡 本当はもう少し早くお伺いしようと思っていたのですが、お怪我をされたとのこと。

福岡 アキレス腱を断裂してしまいました。昨年5月末に私が呼びかけ人になって、剣道をやる国会議員で集まって稽古をしようということになったのです。橋本岳先生を始め10名ほどが集まって稽古をしていたのですが、まさにその最中に切ってしまいました。その瞬間は、まるで鉛の玉が踵に激突したような衝撃でした。

40代、50代というのは、まだ昔のバリバリやってきたイメージが頭に残っている一方、体がついていかなくなる年齢だそうですが、やはり年齢を考えてやらなければいけませんね。プロ野球のピッチャーが年齢を重ねて速球派から変化球派にスタイルを変えるように、いつまでも無理をしてはいけななとつくづく感じました。

杉岡 もう完治はされたのですか。

福岡 まだ全力疾走はできませんが、問題なく歩けるほどには回復しました。



杉岡 先生は佐賀県ご出身ですが、佐賀県は剣道が盛んなのですか。

福岡 佐賀県は人口が少ないですから絶対数は多くありませんが、人口に対して剣道をする人の比率は全国1位です。「葉隠の郷」ですから、そういう意味でも剣道をする人が多いのかもしれない。

杉岡 『葉隠』というと、武士としての心得が書かれた書物ですね。他にはどのような特徴がありますか。

福岡 佐賀県の特徴というと、北は玄界灘、南は有明海という、まったく環境の違う2つの海に面していることです。玄界灘はイカやタイ、アジ、サバなどが有名ですし、有明海は日本一のノリの産地であり、ムツゴロウのような変わった生物もいます。海産物が非常に豊かです。

また、佐賀牛をはじめ畜産関係も盛んですし、米どころでもあります。冬の時期はイチゴも採れます。そのように、佐賀県は非常に食材に恵まれています。

歴史的な名所としては吉野ヶ里遺跡が有名ですが、その他にも、世界文化遺産への登録が決まった三重津海軍所跡や、ラムサール条約湿地に登録された東よか干潟など、文化的な面も充実しています。

さらには、有田焼や唐津焼、唐津くんちなど、文化的に優れたものがたくさんありますが、なかなかうまく発信しきれていないので、何とかもっと発信できればいいと思います。

本年、佐賀県で熱気球の世界選手権や有田焼の400周年の大きなイベントも行われますから、これに向けて盛り上げを図っていかねばいけません。そうした機会に多くの方にお越しいただき、ぜひ佐賀の良さを感じ取っていただきたい

いです。

杉岡 食材に恵まれているとのことですが、先生は料理もご趣味なのですね。事務所のスタッフの方にも作られることもあるとお聞きましたが、どのような料理がお得意ですか。

福岡 和食でも洋食でも何でも作りますが、その時々ではまるものが変わって、一時期はずっと韓国料理にはまっていたことがあります。最近ではインド料理ですね。スパイスを調合するところからカレーを作ることにハマっています。

ストレス発散の方法は人それぞれあると思いますが、私は剣道で身体を動かしているときと料理をしているときに、ストレスが発散できているように感じています。

そんなわけで、それほど美味しいというわけではありませんが、料理をよく作っています。

杉岡 ご家庭でも作られるのですか。

福岡 そうですね。夜は帰れないこともあるので、朝食をよく作っています。

杉岡 ご家族の評判はどうでしょう。

福岡 家内も黙って食べていますから、まあ、食えなくはないのだらうと思います（笑）。

努力を積み上げていくことで 道が開ける

杉岡 先生の座右の銘は「愚公移山」だとお聞きました。私は小学校で習って以降、今でもよく覚えている言葉ですが、先生はなぜこの言葉を座右の銘とされているのですか。

福岡 この言葉は中国の古典『列子』から来ていて、「こ



杉岡 範明 会長

つこつと努力を積み重ねれば山をも動かす大きな力になる」という意味です。

政治だけではなく何の世界もそうですが、やはり近道というのはなくて、こつこつ努力を積み上げていくことで道が開けるのだと思います。私は自分でそれほど才能豊かな人間ではないと思っていますから、微力でも地道に努力を積み重ねていかなければいけないという自分への戒めの意味も込めて、この言葉を座右の銘にしています。

杉岡 先生は内閣府副大臣に就任される前、参議院厚生労働委員の筆頭理事を務めていらっしゃいました。先生の政策の一つとして、高齢化が進んでいる我が国において老後の安心をしっかりと担保できるように、医療制度や介護制度を見直していきたいとあります。具体的にはどのようなお考えでしょうか。

福岡 私たち政治家には、今を生きる人の生活を守るだけでなく、将来を生きる人たちのために日本を健全な状況で引き渡さなければいけないという、両方の使命があると思っています。

現在、私が担当している地方創生も、そもそもは人口減少にどう対応するかということが原点です。現在の日本の人口は約1億2,700万人ですが、仮に現在の1.43という出生率がこのまま続くと、西暦2100年には約5,200万人まで減ることになります。

2100年というのはかなり先のように感じますが、今、生まれてきた赤ちゃんが85歳で天寿を全うする頃に日本の人口が今の4割程度まで減っているということです。そう考えたとき、すごい衝撃を受けました。

この状況に対応するためにどうすればいいか。当然、お子さんが増えるための努力もしなければいけません。一方で福祉や医療を考えると、いわゆる「団塊の世代」という極めて大きな塊の世代があります。この大きな塊の世代がこれまで日本経済を牽引してきましたし、例えば年金保険料も納めてきました。医療保険も介護保険も、保険料を納めるほどには実際には消費してきませんでした。

その大きな塊が、例えば昭和22年生まれの方は今年69歳ですから、年金ももらうようになってきました。医療や介護についても、保険料を引き続き払ってもらっていますが、月々ご本人が払う保険料以上の医療代・介護代を消費するような年齢になってきました。つまり、今まで日本社会を支えてきた大きな塊が、今まさに塊ごと支えられる側に移ろうとしている状況なのです。

一方で、支える側は今、すごい勢いで足が細くなってきていますが、その人たちの医療も守らなければいけませんし、だからといって将来を支える人の生活を壊してしまてはいけません。この連立方程式を解くのは、口で言うのは簡単ですが、非常に難しいことだと思います。

私は議連の松本洋平先生や橋本岳先生と同世代で、昭和48年生まれのいわゆる「団塊ジュニア」世代です。私たちの世代の若手議員が将来も見据えたバランスのとれた社会保障のあり方を考えていかなければ、日本は大変なことになるという思いがあります。そのような思いで今、仲間の先生方と汗をかかせていただいています。

杉岡 今のご説明を伺っていると、2100年というのは本当にそれほど遠い話ではないということが分かります。それに対する危機感を国民全体で共有して考えていく必要があるということですね。

福岡 そうですね。そして、お金だけでは割り切れないところがありますが、効率の良い運営のためにどうしていくべきかということも併せて考えていく必要があると思います。

例えば、昔、子どもがたくさんいた時代に学校をどんどん建てて、そこが今、多くが空き教室になっていて、せっかくなところをかけて建てたのにうまく活用されていないという状況があります。

それと同様に、目先の介護需要や医療需要に合わせて、今後、箱物をどんどんつくったら、将来的に使われない部分のストックが増えてしまうということになるわけです。

人口が今後増えていけばいいのですが、今後、支える人が減っていくことを考えれば、水準を落とさずにどう効率よく回していくかも併せて考えていかなければいけません。特に私たちの子どもの世代にとっては大変な世の中になるのではないかと思います。

杉岡 先生は「信頼される1人の市民であり続けたい」ということで、そのために「聴きます!」「働きます!」「伝えます!」を理念に取り組まれています。これにはどのような思いが込められていますか。

福岡 私は副大臣を拝命してからも、毎週末は地元に戻っています。それはやはり、現場の声を聞くことが大切だと考えているからです。

役所の官僚の方々は極めて優秀な方々ばかりですが、一度こうだと決めたら、その方向性に従って物事が進んでいってしまう部分があるように思います。しかし時には、役所が立てた仮説に基づいて進めていくことが本当に正しいのかどうか、もっと違う観点があるのではないか、立ちどまって別の方向性を見出したほうがいいのかと考えることも大切なはずですよ。

そのために、どこまでできているかは別として、地元に戻って現場の方々と会って話をすることで、今、進めようとしている国の政策が地元の方々の思いと一致しているのかどうか、常に関心を持って見るように努力しています。官僚にない政治家の強みは、現場をどれだけ歩いているかということだと思っているので。

より専門性の高い知識を活かして、 どう医療に貢献するかが問われる

杉岡 そのような思いで先生に取り組んでいただいたおかげで、我々もこの2年の間に、歯科技工士国家試験の全国統一化や、歯科技工士に係る医療職俸給表の改正を実現することができました。本当にありがとうございました。

今後は「歯科技工士教育機関の教育年限の延長」「歯科技工所の実態把握」「歯科技工料が適正に支払われるための施策」という3つの柱を掲げて取り組んでいこうと思います。

これらは決して業界のエゴではありません。歯科医療全体を考えたときに、歯科技工士も国民の歯科医療に貢献するためには、やはりこうしたことを達成していかなければ駄目だという強い思いを持っています。



福岡 資麿 参議院議員

【略歴】

平成8年 3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業

平成8年 4月 三菱地所株式会社入社

平成17年 9月 第44回衆議院総選挙当選

平成21年10月 自由民主党佐賀県支部連合会会長

平成22年 7月 第22回参議院議員選挙当選

平成23年10月 参議院行政監視委員会委員長

平成24年10月 自由民主党政務調査会厚生労働部会長

平成25年 9月 内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官

平成26年 9月 自由民主党組織運動本部副本部長

平成26年 9月 参議院厚生労働委員会筆頭理事

平成27年10月 内閣府副大臣

【現職】

内閣府副大臣(地方創世・国家戦略特別区域・金融担当)

参議院内閣委員会委員

参議院国家基本政策委員会委員

歯科技工士の抱える課題について、先生のご意見をお聞かせください。

福岡 4年前、私が自民党の厚生労働部会長を務めていたときに、当時の伊吹議長に呼ばれまして、自民党の中にも歯科医療全般を議論する場所はあったのですが、今おっしゃられたような歯科技工士の現状にしっかり目を向けて議論する場所を別に設けたほうがいいのかという話をされました。

上川陽子先生を筆頭にして、若い橋本岳先生や松本洋平先生、石川昭政先生などで勉強を重ねていってはどうかということで、それが発端で議員連盟が立ち上がり、まだ道半ばのものもありますが、俸給表の改正などの部分で一定の成果を出せたことは、最初から関わらせていただいた者としては、とてもありがたい思いでいっぱいです。

その上で今後のことを考えると、例えば薬剤師が6年制に変わったことを見ても、より専門性の高い知識を活かして、どう医療に貢献していくかということが、もっとも問われている部分になります。

したがって、所得という点でいうと俸給表は大事な話ですが、やはり2年制ではなく3年制の教育年限になって、より専門性の高い知識を得ていただくことなど、皆さんが本当にプロとして自立していけるような環境をつくっていくことが非常に大切なことだと思います。

今できている部分もあれば、まだ道半ばの部分もありますから、私も微力ではありますが、引き続き議連の中でも一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

杉岡 先生にそうおっしゃっていただけると本当に心強いです。本日はお忙しい中、ありがとうございました。